

大 学 図 書 館 問 題 研 究 会 京 都

〒607 京都市山科区大宅山田34 京都橘女子大学図書館 小林倫道気付
(Tell) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

目 次

第15回支部総会・第1回研究大会報告(事務局)	1頁
多彩なテーマ、豊かな内容、25名が参加	
新人として研究発表会に参加して(一色俊也)	3頁
図書館に対する認識の面積が広がった	
支部総会研究発表会に参加して(若林千奈美)	3頁
興味深かった立命修学館書庫の報告	
研究報告方式の支部総会に参加して(吉田圭子)	4頁
日頃と違った視点で自分の職場を見る	
近畿五支部新春合同例会のご案内	4頁

第 1 5 回 支 部 総 会 ・ 第 1 回 研 究 大 会 報 告

— 多彩なテーマ、豊かな内容、25名が参加(大阪からも2名) —

10月24日(土)午後1時50分、定刻より20分遅れて第15回京都支部総会が開催されました。

まず1992年度総会議案が竹本事務局長より提案され、若干の質疑意見交換の後原案通り可決、支部委員候補も全員信任されました。

続いて2時15分から研究発表に入り、5人

のレポーターから各25分の報告、質疑応答が交わされ、定刻通り午後5時、総会は盛況裏に終了しました。

報告はそれぞれテーマに鋭く切り込み、的確な問題提起を行うなど短時間に濃い内容で行われ好評でした。

▽橋ミニ展示（報告：小林倫道）

展示用スペースもない、金もない、人手もないというなかで創意工夫をこらしたミニ展示を行い、幅広く学生を図書館に引きつけてきた橋の実践報告。環境・ごみ問題に関するゼミ学生の展示、業者や他大学の知恵も借りて豪華だった源氏展、毎年行っている祇園祭展などなど。何となく忙しさと惰性に流されがちな我々にとって鋭く反省を迫る学ぶべき報告でした。

▽NACSIS-IR による文献目録の作成

（報告：竹本文夫）

データベースの検索は何らかの検索語で検索すれば一応の検索結果が得られる。しかし、それが必要にして十分な結果かどうかチェックが必要。検索はいかにして適正な検索語を選ぶかにかかっている。報告は次の二つの事例を中心に行なわれた。仕事で教員から依頼された「カナダの移民に関する最近20年の洋書文献目録」LC MARC 検索例、「万葉集は古代朝鮮語で書かれているか」に関する和図書JAPAN MARC探索例の報告。問題提起としては利用者から見た件名のつけ方の問題でした。

▽立命Research Library構想

（報告：山本修司）

立命では各学部研究室図書の書庫の共同化を実現。同時に共同研究室職員の研究支援業務を如何に効果的に遂行するか、何をどこまですべきか、即ち、教員・研究者用図書館のあり方とそれを可能にする諸条件探究が行なわれている。その過程と現在の到達点の報告。参加者からの質問・意見がもっとも多く後日になっても事務局に「もっと具体的な討論過程を聞きたい。また、職員と教員との関わりについて意見交換をしたい。適当な場を設定してほしい」と意見が寄せられています。

▽立命ILL サブシステム（報告：松原修）

現状ではまだ郵便やファックスでの複写依頼の方が多く、ILL での依頼は全体の3-4割位。その両者を統一的に管理処理する立命ILL サブシステムの報告。「デモが見たかった」「体験学習がしたかった」「郵便などの申し込みをサブシステムで処理することが果たして省力化になるのか」「もっと具体的にメリット・デメリットを知りたい」「現場の複写担当者の意見はどのようなのか」など意見や質問が事務局に寄せられています。

▽図書館の自己評価（報告：篠原俊夫）

College & Research Libraries, Vol.53 no.2, p.150-162. (March, 1992)に出ているカニアモデルによるアメリカ中規模大学の自己評価導入過程の紹介報告。目的、方法、内容の周知徹底、徹底した民主的討論による納得に基づいた導入、評価決定は学生アルバイトまで含む各職種の委員による集団討議など学ぶべきことが非常に多かった報告。時間の関係から主として導入過程で報告が終ったため参加者から「自己評価の結果や各業務の各論を知りたい」「カニアモデルとはどんなものか、翻訳は出ているか」など多くの質問や要望がその場で出されました。また、その後事務局にも「篠原氏に続きの発表を企画してほしい、1回で終わらなければ連続講座でも」と要請が来ています。

以上のように研究大会は大成功でした。

なお、12月支部報は研究大会記録号として発表者本人に執筆して頂き、10頁以上のものを正規の印刷でお届けします。

（支部委員会事務局）

新人として研究発表会に参加して

— 図書館に対する認識の面積が広がった —

一色俊也（京都府立大学付属図書館）

昨年の4月に京都府立大学図書館に入り、まだ2年目で、大学図書館問題研究会に参加するのが8月に続いて今回が2回目の新人です。適格なことはいえませんが素朴な感想を書きたいと思います。

研究発表会には初めての参加で、知っている人といえば本学の方しかおられないので、緊張しながら同志社大学クローバーハウスの前へいくと、そこは暗く案内板もなく、何人も遮断するように入りづらく、「もうこのまま帰ろうかな」と思うほどでした。そして、席につくと、いきなり総会がはじまり、どうしてよいかわかりませんでした。

そうこうしているうちに発表がはじまりました。3時間といえば長いようでしたが、一人の発表時間は10～20分ほどで、手をかえ品をかえ、それぞれがバラエティに富んだ発表でしたので、あまり長いとは感じませんでした。

内容は、各館で実施している具体的な事例が主でした。だから、直接明日からの仕事に

役立つということは、各々の館によって事情が異なるので、ありませんが、「井の中の蛙大河を知らず」というようなことにならないように、他館（日本のことだけでなくアメリカのことまでも）の様子がかいま見られて、図書館に対する認識の面積が広くなりよかったです。それに、なによりも発表された方や質問された方、それにそれを熱心にきいておられた方々の大学図書館に対する姿勢を見習いたいと深く思いました。

私事になりますが、京都府立大学付属図書館には久しぶりの新採として入り、かなり年の離れた人に囲まれて、はっきりいって甘やかされて1年半過ぎてきたと思います。しかし、もうポチポチ「まだ新米です」や「まだ経験がないので」、「まだ初めてなので」という言葉が通じなくなると思います。だから、こういう図書館に関して勉強していく機会ひとつひとつを大切に、その機会に何か一つでも自分の身につけていきたいと思っています。

支部総会研究発表会に参加して

— 興味深かった立命館修学館書庫の報告 —

若林千奈美（京都橘女子大学図書館）

五つの発表の中で私の興味を引いたのは、立命館大学の修学館書庫のお話でした。いろいろな分野の研究書が1ヶ所に集められ、研究者が相互に資料を利用しているという報告はおもしろいものでした。資料の重複を無く

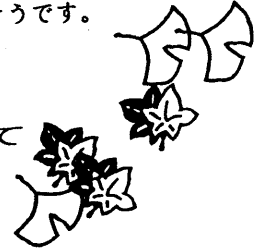
し、限られた書庫スペースを有効利用しているという考えは、これからの書庫スペースの問題をうらなっているように思います。しかし、研究者に対する利用者サービスという点では難しい問題をかかえています。いつも

自分の手元に資料を置いときたい研究者とたくさん
の利用者にサービスを提供したい図書

館員の間にはまだまだギャップがあり、解決
するには時間がかかりそうです。

研究報告方式の支部総会に参加して

—— 日頃と違った視点で自分の職場を見る ——



吉田圭子（京都大学付属図書館）

総会に参加のお誘いを受けたのでしぶしぶ
参加したのですが、今回は研究報告方式だ
ったため、日常の仕事に追われていて、この
ような機会に御無沙汰している私にとって、他
大学の方々の研究報告は興味深いもので、出
席してよかったという感想です。

京都橘女子大学の展示会の紹介には、大学
の個性を強く感じ、京都大学で展示会の仕事
を経験した私には、形に捕らわれないところ
と、学生が企画に参加し楽しんでいるところ
がおもしろいと思いました。機会があれば一
度拝見したいと思います。

NACSIS-IR の検索の事例では件名入力
の軽視が検索の効率を下げていているとの指
摘がありました。相互利用というサービスに
当たっている毎日では、具体的にこの図書
の所在が

どこか、ということにのみかかわっている
ため、遡及入力
の増加と重複書誌をなくすことが最重要
と考えていたため、“えっ”と思わ
されました。

図書館の自己評価の和訳の紹介は、日頃
実践あるのみといった毎日を送っている
ものにとって、図書館とは如何にあるべき
かといった、原点にたちかえらせてくれ
るような内容の重みを感じました。

今回の総会が研究発表の機会を盛り込
んだものになったのはよかったと思いま
す。職場ではほとんど研修の機会がな
く、自己研修の時間も持てない状態な
のですが、私にとって大図研は同じ図
書館で働く人の話を聞き、日頃と違
った視点で自分の働く図書館を見
るところかなと思わせた機会でした。

恒例近畿五支部新春合同例会のご案内

日時 1993年1月9日（土） 午後5時～7時
場所 奈良（会場交渉中）
テーマ 浮世絵と富士山
講師 成瀬不二雄氏（大和文華館次長）

※講師は日曜美術館等テレビ新聞などにも出ている談論風発の大変話の
面白い人です